



「信仰の時間」

ABC ラジオ(朝日放送)
毎週日曜日 5:50~6:00AM

3月担当：エリック・パウチスタ・デ・グスマン神父
(梅田ブロック共同)

あなたの家と思う熱意が わたしを食い尽くす

(7日放送分より)



ヨハネによる福音書(2・13～23)を読んでみましょう。

「ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。『このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。』弟子たちは、『あなたの家と思う熱意がわたしを食い尽くす』と書いてあるのを思い出した。ユダヤ人たちはイエスに、『あなたは、

こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか』と言った。イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。』それでユダヤ人たちは、『この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか』と言った。イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。



今日の福音の中で主イエスは、エルサレムの神殿に来られたとき、その境内で牛や羊や鳩などを売っている人たちがいることをご覧になって、非常に怒りを感じられたと書いてあります。神殿はもともと「神の家」、「神のお住まい」と言われますが、そのとき、商売人たちの他に、両替をする人たちも、他の人を騙す悪い人間もあちこちにいました。聖なる場所であるはずの神殿がまるで「強盗の巣」になってしまったことはイエスにとって、とても悲しいことでした。

教会とは、ギリシャ語で「エックレシア」で「呼ばれた者たちの集まり」という意味です。「教会」と言えば、「教会聖堂」と「教会共同体」の2つの意味合いが考えられます。

呼ばれた者たちの集まりという意味で、神を信じ洗礼を受けて、定期的に礼拝のために集まっている人々は「信者」「信徒」と言います。

一方、「教会聖堂」というもう一つの「教会」の意味は、教会共同体が集まる建物自体のことを意味しています。教会聖堂の他に会議室、図書室、事務所、司祭館などの役に立

つ施設も必要に応じて設けてあります。

教会聖堂は「神の家」、「天国の象徴」であるため、色々な特徴があります。例えば、教会聖堂は天国を表すために、ほとんどの場合、天井が高く、中には天使たちや聖人たちのご像などが安置されています。神様の存在をさらに体感できるようにお花やお香などを使います。また教会は、主イエス・キリストのご生涯を思い起こすために馬小屋の設置なども積極的に行います。

普段、教会聖堂では静かに祈り、黙想しますが、信者の皆さんが集まるときには一緒にミサに与ったり、講演を聞いたり、場合によっては別の集会室で賑やかな歌やダンスや宴会なども行うことができます。

長崎県には、歴史が長くとても美しい教会がたくさんあります。その中のいくつかの教会は世界遺産、または文化遺産として、登録されています。私が司牧している(※放送当時)夙川教会もとても美しい教会なので、機会があれば、ぜひ夙川教会まで足を運んでいただいて、見学に来てみてください。



聖ヨセフとわたし

聖ヨセフ年(今年12月8日まで)を記念し、霊名がヨセフの司牧者に聖ヨセフにちなんだものの紹介や個人的な気づきをシェアしていただく。

神様に固く信頼するヨセフ様

【聖ヨセフへの3つのお告げ】

主の使いから聖ヨセフへの一つ目のお告げは、マリアを妻として迎えるようにと告げた時(マタイ1・18～24)。二つ目は、『幼子とその母を連れて、エジプトへ避難する』(同2・13～18)ように告げた時。三つ目は、『幼子とその母を連れてイスラエルの地に』帰るよう告げた時(同20節)。三度のお告げに対して、聖ヨセフは神からのあふれる愛と召命への従順さ、すぐに従う固い信仰をもって歩んでいきます。

【ナザレでの聖ヨセフの生き方】

救い主の使命を一切分からなくても、聖ヨセフが生涯、愛と喜びをもって御子を受け入れたこと、父親としてあらゆることを受容したこと、創造性をもって行動した勇氣、質素な労働者としての姿、目立つことのなかった生き方——こうしたヨセフの生き方に福音記者は触れています。

【聖ヨセフを模範として】

このコロナ禍中、聖ヨセフに倣い、幸福の中にあっても精神的・肉体的苦難の中にあっても、希望と信仰を失うことなく神様に繋がっていることを感謝しましょう。へブライ人への手紙も語るように「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認すること」です(11・1)。ヨセフ様を模範として、いつも喜びのうちに神のみことばを受け入れ、それを実現していくのです。ヨセフ様のように人びとに奉仕し、良い手本になることは、私たち信者にとって大切なことだと思います。



チョン・ディン・ハイ神父
(藤井寺教会)

芦屋教会発

世界のごちそう博物館

～ベトナム編～

外国人信徒の母国の味を現役シェフが再現するイベントをオンラインで開催

世界中の料理をレトリートにして紹介しながら、飢餓などの食の問題について考える取り組みをされている本山(磯田)尚義シェフ(芦屋教会)が講師。シェフによって、目の前で再現される各国料理を試食しながら、外国人信徒の話を聞く形でイベントが行われてきた。これまでに取り上げられたのはアメリカ南部、台湾、

4月10日、芦屋教会ではYouTube配信で「第四回世界のごちそう博物館」ベトナム編」を開催。この企画は、芦屋教会に集う外国人信徒の出身国の文化やカトリック教会の様子について料理をおしえて学ぶことを目的に始められた。



材料の紹介も



シェフの説明を聞きながら試食

料理を食べに行きたくなりました」や「コロナ禍が収まって会食できるようになるとよいですね」などの反応があった。映像は芦屋教会のYouTubeチャンネルで視聴可能(「カトリック芦屋教会」で検索)。美味しい動画をどうぞ召し上がれ。

「ベトナム編」の動画

